

2025 年 7 月 7 日
日本船主協会企画部広報室

海運の重要性を大学生に説明
～川崎市にて海事施設の見学会を開催～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し商船をはじめとする海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、東洋埠頭の協力を得て、6 月 16 日（月）に日本大学理工学部交通システム工学科の学生約 20 名を対象に、川崎港コンテナターミナルの見学会を開催しましたので、その様子をお知らせします。

【見学会概要】

はじめに、バスでコンテナターミナル構内を移動し、実際にコンテナが積み上げられている様子や、トランスファークレーンでコンテナを移動させる様子を見学しました。当日はコンテナ船が着岸しており、ガントリークレーンが緻密な操作でコンテナを丁寧かつ迅速に荷揚げする様子を、離れた場所から見学しました。また、プッシャーバージの「はしけ」への荷役も見ることができ、「はしけ」を活用した環境に配慮したコンテナ移送について担当者から説明を受けました。



コンテナ船荷役を見学する様子



（左）「はしけ」に積まれたコンテナは、東京港へ移送される （右）説明を聞く参加者

コンテナヤードでは、電源が接続されたリーファーコンテナや、タンクコンテナ等様々な種類のコンテナが蔵置されている様子を見学した他、コンテナを移動することのできる「リーチスタッカー」が実際にコンテナを掴み、持ち上げ、移動させる様子を実演いただき、参加者からはその迫力ある様子に驚きの声があがっていました。

その後、参加者は、20FT ドライコンテナ・40FT ドライコンテナ、リーファーコンテナの中に実際に入り、内部の構造の違いについて学びました。特にリーファーコンテナは、 -10°C まで冷やしてあったため、扉を開けると冷気が漏れ出し、参加者は冷蔵品・冷凍品を運ぶリーファーコンテナの温度管理技術を体感していました。

リーファーコンテナには、コンテナ内の温度を表示する画面が外側についており、定期的に正しい温度に保たれているか確認をしているという説明を受けました。



(上段左) リーチスタッカーでコンテナをつかんでいる様子 (上段右) ドライコンテナ見学の様子



(下段左) -10°C に冷やされたリーファーコンテナ内部 (下段右) 大人 20 名以上が入れる 20ft コンテナ

ターミナル見学の後には、会議室にて当協会担当者が海運に関する簡単な講義を行ったほか、川崎港コンテナターミナルの特徴や業務内容についてターミナル所長から説明いただきました。その後、東洋埠頭で行っている通関、ふ頭業務、ターミナル業務、倉庫業務等について、動画も交えながら人事担当の方から説明を受けました。

参加者からは、横浜・品川等近隣にも大規模な港湾がある中での川崎港の特徴や、コロナを経て変化したことがあったか等について、積極的に質問が出ました。中でも「川崎港コンテナターミナルのバースは最大2隻まで同時に着岸可能とのことだが、ガントリークレーンが3基あるのはなぜか」という質問に対して、「1隻で300本以上のコンテナを荷役するときは、2基のクレーンを使用すると決めており、また、故障の備えとしても3基の体制としている」という回答があり、参加者は学びを深めていました。



ターミナル業務について学ぶ様子

川崎港コンテナターミナルの見学後には、「川崎マリエン（川崎市港湾振興会館）」に立ち寄り、展望台から川崎港のコンテナターミナルをはじめ、自動車輸出や資源輸入等のための施設を見学し、経済、暮らしと密接にかかわっている海運・港湾についての理解を深めました。



川崎港を見学する様子

当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。